

コスト抑制を目指した夏植栽でのコンテナ苗の活用

～優良品種（クリーンラーチ）コンテナ苗の夏季植栽～

石狩森林管理署

目標 ～トータルコストを下げる～

民有林におけるコンテナ苗の導入を増やし、夏季の事業空白時期を埋めて労働量の平準化での造林コストの抑制し、伐採と造林の一貫作業に取り組むなど、更なるトータルコストの削減つなげていく。

背景・必要性 ～夏植栽による労働量の平準化～

【現状】

高性能林業機械による施業・路網整備など徐々に増えつつあるが、造林では、植付方法や植栽時期が従来どおりでコストの抑制が進んでいない現状にある。

【目的】

コンテナ苗のメリットである「植栽時期を選ばない」点に着目し、夏季植栽を行い、夏季の事業空白を埋め、労働量の平準化とコンテナ苗を活用し、造林コストの抑制を図る。



平成27年度の取組の成果と課題

～実行とデータ収集～

今後に向けて

【成果】

一貫作業での事業実施

- 優良品種（クリーンラーチ）コンテナ苗の夏季植栽を前提とした、伐採と造林の一貫作業を実施。造林コスト縮減にむけ地拵の支障となる末木枝条の販路を開拓。従来の帯幅の片方に森林作業道を作設し枝条を集積する方法から、帯幅中央に森林作業道を作設し末木枝条を効率的に集積することにより、地拵の労働強度軽減され造林作業の省力化が図られた。

工程調査による結果

- 降雨量も少なく乾燥した時期であったが、コンテナ苗（クリーンラーチ）の夏植栽を7月に実施し、活着率96%で良好な結果であった。
- 植付器具毎の工期や一貫作業工期などの数値を得ることが出来た。

現地検討会による普及

- 札幌市や、石狩市森林組合等の林業関係者を参集する中で、コンテナ苗の夏季植栽でコスト抑制を目的に現地意見交換会実施（11/12）した。意見交換では「苗木の規格統一が必要では」「出荷時の運搬方法が確立されていない」など、地域のコンテナ苗の活用への意欲がうかがえた。

下刈軽減への新たな試み

- 請負者による技術提案による草本等抑制（下刈軽減）のためのチップ敷（マルチング）が行われ、コストの問題もあり草本等が繁茂するような箇所へは有効ではないかと期待される。

民有林と連携した調査等

- 森林室と合同で同じフォーマットでの植付器具等の工期調査を行い、データ等の情報交換を行った。

【課題】

- 今後、傾斜地での事業が多くなることから、枝条の整理方法や植付の機械化（オーガ）などの導入も考えた作業方法を組み立てていく必要がある。
- 植栽予定時期のコンテナ苗の供給が安定的に行われる需給体制が必要。
- 得られたデータの活用について検討が必要。

作業方法



マルチング



オーガ



～メリット実証の継続～

コンテナ苗を活用した取組は、伐採と造林の一貫作業と末木枝条の売払い、森林作業道取り付け位置及び枝条置き場を一体的に組み合わせることにより、造林作業の省力化や末木枝条に泥が付着しない(買受者から好評)などの成果が得られた。

今後は、

○コンテナ苗のメリット「植栽時期を選ばない」ことの拡大検証

○オーガによる植付の機械化への取り組みと有効性の検証

○植付工期に関する情報を担当者間や森林室等と共有し、過去のデータを含めた分析を行う等、コンテナ苗の普及に資するデータの整備

具体的な取り組みを推進